

## 乾側をよくする会

### 1 基本データ

○地区名 乾側地区

○地区人口 1,004人

(平成24年7月1日現在)

○面積 10.51km<sup>2</sup>

○地区の沿革

乾側地区は、市街地の西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8集落からなり戸数約230戸で、酒米と種籾産地として有名な純農村地域である。

○実施主体

乾側をよくする会

### 2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣（和同開珎）も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金

森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内2番目の多さの畝掘数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であるが、地域住民自身はその認識が薄いのを実情である。

### 3 事業の内容

①上丁～向山間（鋤掛坂）新規登山道開拓・整備の事前調査

日時 5月29日（火）午前8時～正午

参加者 よくする会会員3名、九頭竜森林組合2名、他3名

内容 上丁～向山間（鋤掛坂）登山道は、その昔、郵便配達人が鋤掛と上丁を行き来した道といわれているが、長い間、使用した形跡がなく草が生い茂る状態であった。

このため、登山道を復活・改善するため事前に関係者により、歩きやすいようなルートを選定、また、勾配の急なところに階段を設置する箇所の確認などの調査を行った。



草が生い茂る登山道



### ルートの確認作業

②三社神社登山道整備の事前調査

日時 7月26日(木) 午前8時～正午  
参加者 よくする会会員3名、九頭竜森林組合 2名、他1名

内容 本格的な整備に向けて、登山道を歩きやすいようにするため、雑木伐採箇所の確認、勾配の急なところに設置する階段や補修箇所などの確認作業を行った。



### 歩道整備・階段設置箇所にテープで目印



### 階段設置箇所にテープで目印

③上丁～向山間（鋤掛坂）新規登山道開拓・整備の歩道整備

日時 10月9日(月)～10月16日(火)  
午前8時～午後5時

事前調査で決定したルートについては、新規に開拓しなければならなかったため、地域住民で整備が困難であると判断し、住民参加による整備に向けた事前整備を、九頭竜森林組合に委託し実施した。



④上丁～向山間（鋤掛坂）新規登山道開拓・整備の実施

日時 10月21日(日) 午前8時～正午  
参加者 地区住民31名

内容 総延長 400メートル

○新規階段設置 7箇所 150段(延べ約230メートル)

○歩道整備 2箇所 (延べ約19.6メートル)

戌山城は、戦国時代、攻め込む敵を防御するための「堀切」や「土橋」「曲輪」などの遺構が残る山城である。

昨年度「みくら清水」登山口から登る総延長1,700メートルの登山道を整備しており、本年度は、「みくら清水」登山口から上丁の集落に下りてくるための400メートルを設備することができた。



材料の荷上げ



入り口付近の作業風景



## 新規階段の設置作業



## 新規階段設置後の風景

### ⑤三社神社登山道整備の雑木伐採作業

日時 11月1日(木)～11月2日(金)  
午前8時～午後5時

内容 雑木伐採作業 約20本

危険が伴い地域住民で困難な雑木伐採作業については、九頭竜森林組合に委託し実施した。



### ⑥三社神社登山道整備の実施

日時 11月4日(日) 午前8時～正午  
参加者 地区住民39名

内容 総延長500メートル

○新規階段設置 8箇所 75段(延べ約114メートル)

○歩道整備 3箇所(延べ約23メートル)

○ロープ設置 4箇所(延べ約20メートル)

昨年度は、ふるさと林道参道口を少し登り、右に下る約200メートルの登山道整備が完了した。牛ヶ原城は、鍋床山にあり牛ヶ原荘

の地頭淡川右京亮時治の城跡と推定されている。

本年度は、左に約500メートル進むと石造りの小さな祠がある三社神社までの登山道整備を実施することができた。また、登山者がわかりやすいよう、牛ヶ原城と三社神社へ進む分岐点に案内板も設置した。



材料の荷上げ



新規階段の設置作業



案内板設置（分岐点）



整備後の風景

#### 4 事業の成果

上丁～向山間（鋤掛坂）新規登山道開拓・整備及び三社神社登山道整備を地域住民参加により地域住民自らが地域づくり活動に汗を流すことにより、「地域力」、「市民力」の高まりを図ることができた。

これら一連の事業への取り組みを通じて、地域内に貴重な文化財が存在することを再認識し、地域への愛着や誇り、ふるさと意識が高揚され、地域の史跡を整備・継承していくことを通じて、自らの手で地域をさらによくしていこうとする地域づくり活動の活性化に繋がった。

#### 5 今後の展望

「みくら清水・戌山城址」「牛ヶ原城址・三社神社」の2コースが完成した。

#### 「みくら清水・戌山城址」コース



みくら清水・戌山城址」コースは、城兵が一日3回水をくみ来たというみくら清水から戌山城址をたどり、上丁集落へ下りてくる約1,400メートル。戌山城には、郭や堀切などの貴重な遺構が見られる。

### 「牛ヶ原城址・三社神社」コース



「牛ヶ原城址・三社神社」コースは、大野・美山ふるさと林道を進んだところにある参道口から、右に200メートル進んだ牛ヶ原城址と左に約500メートル進むと石造りの小さな祠がある三社神社がある。

この2コースを軸に、今後は、史跡・文化財の活用や来訪者増加のための方策に知恵を出し、地域の魅力を積極的に発信していきたい。

なお、本事業において「雨乞い踊り」のための太鼓・笛・法被など必要備品を整備し地域行事などの機会を捉えて発表を行ったが、引き続き、発表の機会を持ち、しっかりと傳承していきたい。